

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

白浜町立南白浜小学校 佐々木 千佳

1. 単元名 ふるさとのこれまで・これから～南白浜小学校150年の歩みを未来へつなごう～

2. 単元の目標

- ・南白浜小学校区も高齢化や人口減少等の地域課題を抱えていることを理解する。
- ・学校に関わる出来事や地域の歴史文化財について調べ、変化を年表や記念誌に掲載する記事にまとめることができる。(知識・技能)
- ・学校や地域に関わる事柄を調査し、獲得した情報を年表や記事に整理しまとめていく活動を通して、地域の良さや課題について考えられる。
- ・地域や学校の未来について、さらによりよくしていくにはという目的意識を持ちながら、自分たちにできることは何かを考え、自分なりに考えたことをわかりやすくまとめ発信することができる。(思考・判断・表現)
- ・選択したテーマに関わる情報を得るために様々な調査方法を考え、わかりやすくまとめようとしている。
- ・150周年記念行事の成功に向け、異なる意見や他者の考えを受け入れながら内容や方法を吟味し、仲間と協力しながら発表や体験コーナーの企画・運営に取り組んでいる。(主体的に学習に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、自分たちが、保護者だけでなく地域の人々にも見守られ支えられながら学校生活を送っていることに気づくと共に、地域に生きる一員として自分たちに何ができるかを考え、地域に還元しようとする実践力を養うことを目的としている。

その際、今年度、本校が創立150周年を迎えることを踏まえ、年表及び記念誌の作成と創立150周年記念行事「南白浜フェスティバル」での発表及び体験コーナーの企画・運営を教材とする。

年表や記念誌にまとめるためには、学校や地域のこれまでの出来事についての資料を集める共に、地域の様々な世代の方にインタビューすることが必要となってくる。この活動の中で、自校の歴史を知り、地域の方々の学校に寄せる思いに直接触れることは、コミュニケーションスキルの向上だけでなく、自分の地域や学校を誇る気持ちを育むことにつながる。

また、実際の出来事を年表に記し、児童数の減少や高齢者の増加等の地域課題を自分事として捉えさせるだけでなく、未来を予想する年表を作成することで、未来志向の視点を持たせ、望む未来を実現するために、今、自分にできることは何かという思考を促すことが期待できる。

(2) 児童観

本学級の児童は、第3学年で、社会科地域学習の発展として、「きのこ産業について学ぼう」をテーマに、校区に在する県内で唯一なめこ栽培を手掛けるきのこ工場を見学後、なめこの売り上げアップを目指し、スーパーでのポスターによる宣伝とフェスティバルでのきのこ販売を行った。第4学年では、国語科「もしものときにそなえよう」の学習と関連付けながら地域の防災に関わる取組について調べ、防災リーフレットを作成しフェスティバルで配布した。また、第5学年では、6年生と共に「みどりの少年団」の活動として、花の栽培と地域への配布、地域清掃等を実施してきた。それぞれの学年でのふるさと学習を通して、地域とのつながりを感じ、ふるさとへの理解や愛着が育まれつつある。

ただ、今年度50周年を迎えるみどりの少年団の活動は、「例年しているから」という意識が強くマンネリ化しており、5年生時には、普段の花の世話等は6年生や友達任せという児童が複数名いた。また、全国学力状況調査において、地域行事等への参加率は高いが、「地域や社会をよくするために何かしていきたいと思いませんか」という問いに「そう思う」と回答した児童は■%であった。普段の学校生活でも、少人数の学校で手厚いサポートを受けながら活動することが当たり前になっており、比較的受け身な児童が多く、地域の一員として自ら進んで関わろうとする意識は薄いことがうかがえる。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず、本校が今年度150周年を迎えること、自分たちは150年という節目の卒業生であるという事実から出発し、150周年記念行事を成功させるという共通のゴールを設定

することから始める。学校のリーダーを担う高学年としての自覚を促し、本単元の学習に対する意欲向上を図りたいと考えている。

次に、白浜町と本校の児童数の推移を表したグラフを提示する。今後6年間で半減する本校児童数の推移のその先を予想させることで、学校の存続が危ぶまれるほどの課題であるという切実感を持たせて学習に臨ませる。

続く年表や記念誌づくりでは、100周年記念誌やインターネットだけでなく、インタビューやアンケートの実施等、多様な世代の他者と関わり合いながら進める調査活動を大切にしたい。地域住民の学校に対する思いに触れると共に、学校の歴史をまとめる中で、自分自身も150年の伝統を受け継ぎ次世代につないでいく存在であることに気づかせ、南富田という地域に生きる一員であるという自覚を促す。

また、創立150周年記念南白浜フェスティバルに向け、仲間と協力しながら試行錯誤する過程をポートフォリオに残していくことで、自分の頑張りや成長を自覚させ、自己有用感を育みたい。

同時に、この単元の学習を「ふるさと学習」の視点でカリキュラムマネジメントし、社会科での公民分野・歴史分野、国語科「今、私は、ぼくは」の学習、算数科でのデータ活用、図工科での「私の大切な風景(絵)」「未来の私(立体)」、家庭科「あなたは家庭や地域の宝物」等々と関連付けながら実施することで、よりよい地域や社会の実現に向け主体的に関わろうとする気持ちを育み、中学進学後の実践へとつなげられればと考えている。

(4) ESD との関連

■本学習で働かせる ESD の視点 (見方・考え方)

・有限性

50年後の南白浜はどうなっているのだろうか。受けついできた地域の伝統や良さを守り残していくためには、自分たちも努力していかななくてはならない。

・責任性

地域の方々には、花づくりの手伝いや清掃活動、祭等、子どものための取り組みをたくさんしてくれている。ふるさとをよりよくするために自分たちにできることを実行したい。

■本学習で育てたい ESD の資質・能力

・コミュニケーションを行う力

世代の異なる人々との触れ合いを通して多様な考えに触れ、自分が望む町について具体的にイメージする。

・他者と協力する態度

テーマごとのグループで意見を出し合いながら、協力して最後まで活動することができる。

■本学習で変容を促す ESD の価値観

・幸福感

南白浜地区には、素晴らしい物があり人がいて伝統を受け継いでいる。

・世代間の公正

これまでに地域の先輩たちが大切にしてきた南白浜の良いものを自分たちも守り続け、これから先に生まれる後輩たちに伝えていこう。

■達成が期待される SDG s

11 住み続けるまちづくりを

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①高齢化や人口減少等の南白浜小学校校区の地域課題を理解している。 ②学校に関わる出来事、地域の歴史について調べ、変化を年表や記事にまとめている。	①各種調査の結果から地域の良さや課題を見出し、課題解決に向けての方策を模索することができる。 ②地域や学校の未来について自分なりに想像し、年表や記事にわかりやすくまとめ発信している。	①選択したテーマの課題解決に向け様々な調査方法を考え、わかりやすく年表や記事にまとめようとしている。 ②仲間と話し合い協力しながら150周年記念行事での提案発表や体験コーナーを企画・運営している。

5. 単元の指導計画（全30時間）

次	主な学習活動（・予想される児童の反応）	学習への支援	評価
1 (1時～2時)	<p>1 学習の見通しを持つ。</p> <p>◇創立から150年間の小学校や地域の歴史に触れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一徳さん清掃の時に聞いた火事で多くの人が亡くなっている。 ・学校のことってほとんど知らないな、どんなことがあったかもっと知りたい。 <p>◇百周年時の様子を知り、150周年記念行事として南白浜フェスティバルを成功させようという学習目標を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域みんなでお祝いをしている。150周年も盛り上げたい。 <p>◇人口推移のグラフから地域課題を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちが高校を卒業するころ、児童数は26名になっている。もっと減ったら学校はどうなるの。 <p>2 記念誌づくりに向け、より深く調べてみたい学習課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・百周年の続きの年表を作りたいな。 ・火事のことについて詳しく調べ、一徳さん清掃に参加していない下級生にも伝えたい。 ・子どもの生活はどのように変化してきたのかな。学校生活で一番心に残っていることはどんなことだろう。 ・みどりの少年団の活動も50周年、これまでの活動を知りたい。 ・昔は漁業もしていたと聞いたが今はいない。地域の様子はどのように変わってきたのかな。 ・金刀比羅神社の子ども奉納相撲はいつから行われているのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・百周年記念誌の中から大きな出来事を取り上げ年表に書き入れることで、年表づくりと記念誌作成への見通しを持たせる。 ・校長室に掲示されている百周年記念行事の写真や石碑を提示し、150周年行事への取り組みの意義を自覚させることで意欲を高める。 ・現在までの児童数の推移グラフを提示し今後を予想させた後、実際の数字を示す。 ・年表の150年以降を想起し、学校の存続が危ぶまれる状況であること、学校が無くなってしまふことのマイナス面を具体的に想像させる。 ・年齢構成のヒストグラムを提示し、高齢者の占める割合が高いことにも気づかせる。 ・今後のグループ活動につなげるため、個々の学習課題を「百周年以降に起こった主な出来事（年表づくり）」 「子どもたちの生活の様子の変化」 「緑の少年団活動（花づくり）」 「地域の産業やくらしの変容」「地域の行事や文化財」「地域の先人」等、いくつかのテーマに集約する。 	<p>ア①</p> <p>ウ①</p>
2 (3時～4時)	<p>3～8 テーマ別のグループに分かれ、調査活動を行い、年表や記事にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットにはあまり情報がない。家族や地域の人に聞いてみよう。 ・回覧板で募集したらもっと詳しい人が見つかるかも。 ・お年寄りとお話する時は、ゆっくりはっきり話さないと伝わらないな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットや学校に残る記録等では資料が少ないことを実感させ、別の調査方法を考えられるようにする。 ・地域へのお知らせツールとして回覧板があることを想起させ、協力依頼へとつなげる ・計画時間内で有意義なインタビュー活動を行えるよう協力者が学校に集う場を設定する。事前の打ち合わせは教師が行うが、実際の依頼は、児童に電話や直接訪問して行ってもらふことで、コミュニケーションスキルの習熟を図る。 	<p>ア②</p> <p>イ①</p> <p>ウ①</p>

	<p>9・10 中間発表会を行い、活動の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍以前は、もっと地域の人が学校の活動を助けてくれていた。学校を大切に思い、支えてくれている人がいる。 ・南白浜の素敵などころがたくさんある。 <p>11～13 記念誌に掲載する記事と年表を仕上げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で共有することで、様々な面からの地域の歴史や良さに触れさせる。 ・グループそれぞれの調査報告について質疑応答する中で、不十分な点を明確にし次の活動につなげる。 <p>・年表に、50年後・百年後まで書き込める余白を残し、自分が望む学校や地域の未来を想像し書き込ませることで、未来志向の視点を持たせる。</p>	<p>イ① ウ①</p> <p>ア② イ②</p>
<p>3 (14時～25時)</p>	<p>14 南白浜フェスティバルでの発表や体験コーナーの内容を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下級生にもわかりやすいよう、一徳さん物語を劇にしたい。 ・聞き取りで知った地域や学校の自慢を紹介したい。南白のお宝&人間国宝さんとか。 ・種まきの時に助けてくれた人が、僕らとしゃべって元気出たといっていた。体験コーナーはおしゃべり喫茶店をしたい。多くの人からもっと地域のことを教えてもらえる。写真を持ち寄ってもらえるよう回覧板で依頼しよう。 ・お世話になった人に感謝状と花を贈りたい。花の苗を来た人にも配ろう。 <p>15～22 学習発表・記念誌・体験コーナーを担当するグループに分かれフェスティバルに向けての計画立案、準備を行う。</p> <p>23～25 フェスティバル当日、学習発表と体験コーナーの運営を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区内の歴史や文化財、地域のために尽力した先人について調査した結果の中から内容を絞る。劇、タブレットを使って等、内容を伝えるに適した発表形式を話し合わせる。 ・フェスティバルを多くの人にインタビューできる場として捉え、話しやすい雰囲気にするにはという視点を持たせ、体験コーナーの内容を計画させる。 ・計画時間内で取り組みが完結するよう、グループ毎にプロジェクト型スケジュール表を活用する。その日の活動終了後毎に、短時間で振り返りと今後の活動の修正を行うことで自主的活動を促す。 ・「小学校にまつわるエピソード」「こんな学校、南白浜になるといいな」の視点でインタビューを行い、年表に書き入れる。幼児や高齢者、皆が参加しやすいよう、タブレットだけでなく手書き用付箋も用意しておく。 	<p>イ① ウ②</p> <p>ウ②</p> <p>ウ②</p>
<p>4 (26時～30時)</p>	<p>26～29 自分が描く未来のふるさとを創っていくために自分たちにできることを考え、ポスターと宣言文にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の人が書いてくれた未来年表は、ただ便利になるだけじゃなかった。みんなが元気に楽しく暮らせるといいな。 ・富田中学校がしている富中フェスや夏祭りも楽しかった。中学生になるのが楽しみだな。大人になったらしたいことも入れておこう。 <p>30 ポスター発表を行い、活動を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・来訪者の言葉に触れさせ、科学技術の発展や便利さだけの追求とならないよう視点を広げる。 ・選挙のマニフェストビラ等を参考に、短くポスター形式でまとめさせる。宣言文は国語科で取り組み文集として残す。 ・3学期の「卒業プロジェクト～感謝の気持ちを伝えよう～」へ繋げることを意識して記述させる。 	<p>イ②</p>

